

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和6年3月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケート形式で情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。
この度、令和6年3月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 景気判断DIは全地域で先行きが3期ぶりに50を上回った～

☆ここがポイント

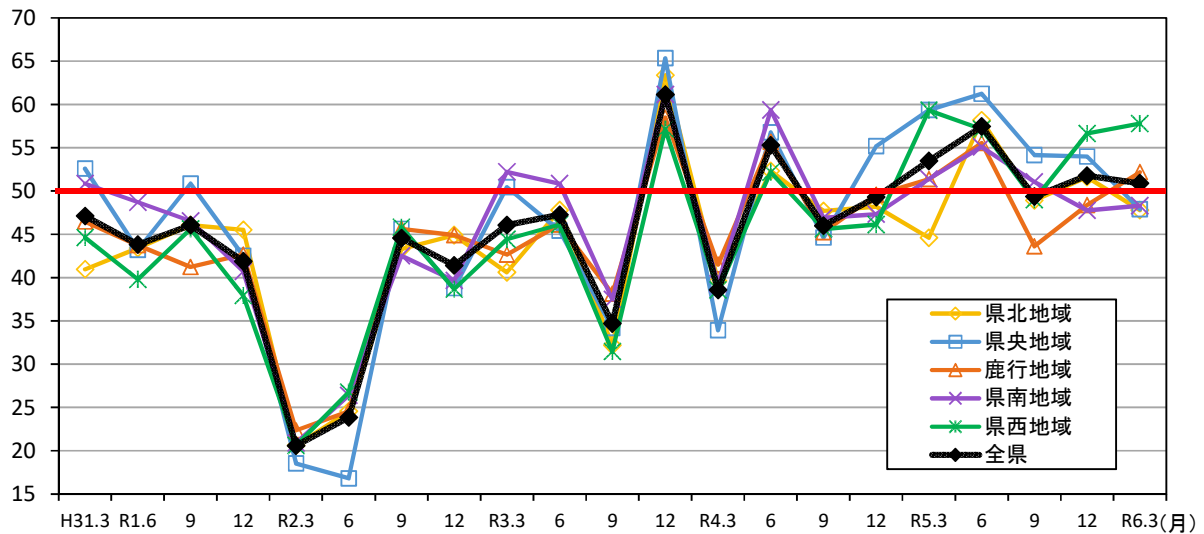
区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI(Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気の方向性（景気が上向きか下向きか）を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比（%）で乗じてDIを算出している。 <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
	3月調査結果	前回調査との差	3月調査結果	前回調査との差	
県全体	50.9	△0.9	54.6	+6.0	
県北	47.8	△3.8	55.4	+10.7	
県央	47.9	△6.1	52.6	+3.6	
鹿行	52.2	+3.8	53.9	+2.3	
県南	48.3	+0.5	54.4	+11.6	
県西	57.8	+1.2	56.8	+2.2	

○県全体の景気判断DIは前回調査から、現状が2期連続で50を上回り、先行きが2期ぶりに50を上回った。

○地域別では、県北と県南の先行きが前回調査を大きく上回った。分野別では、雇用関連のみが現状も先行きも前回調査を上回った。

○ウォッチャーからは、商品等の値上げや賃上げに関するコメントが多く寄せられた。

(DI) 景気現状判断DIの推移（地域別）



〔調査の概要〕

- ・ 調査客体数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに50名、計250名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和6年3月1日から20日まで）
- ・ 回答率 … 92.8%（250名中232名から回答）

（地域区分）
 県北地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
 県央地域：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
 鹿行地域：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市
 県南地域：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

〈参考〉

現状判断回答構成比

調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	8.1%	8.7%	2.5%	5.1%	2.6%
やや良くなっている	29.7%	37.8%	25.2%	23.6%	26.3%
変わらない	36.6%	32.0%	44.5%	48.9%	46.1%
やや悪くなっている	19.4%	17.8%	22.7%	18.1%	22.0%
悪くなっている	6.2%	3.7%	5.0%	4.2%	3.0%

先行き判断回答構成比

調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	8.4%	5.0%	2.9%	2.5%	2.6%
やや良くなっている	32.6%	27.4%	24.8%	17.3%	29.7%
変わらない	38.1%	46.5%	51.3%	56.1%	52.2%
やや悪くなっている	15.4%	19.1%	17.6%	20.3%	14.7%
悪くなっている	5.5%	2.1%	3.4%	3.8%	0.9%

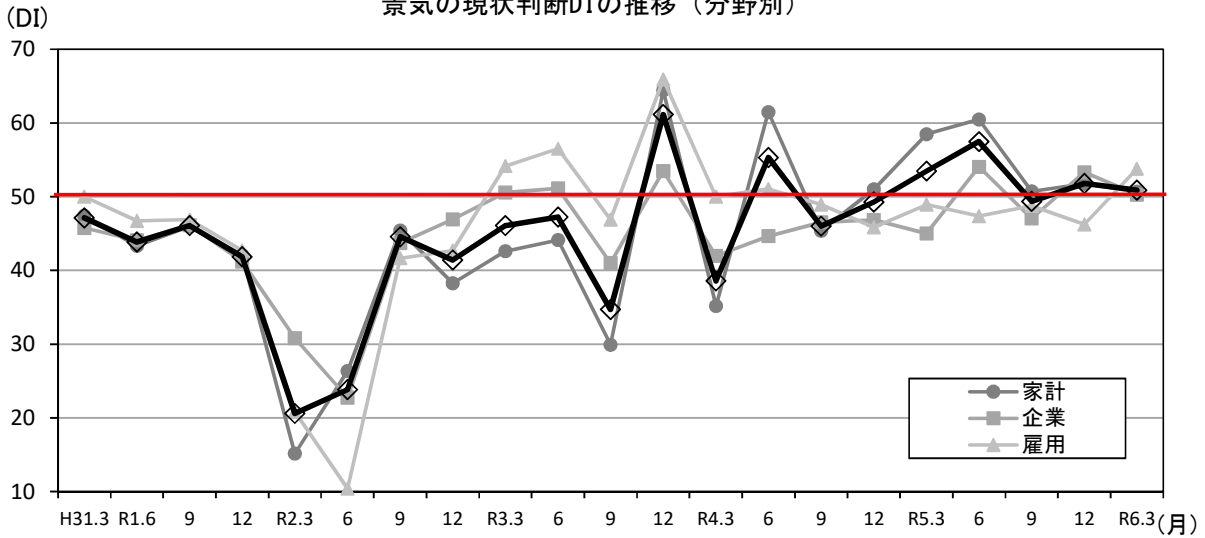
2 分野別の動向

(1) 現状判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より1.1ポイント低下したものの、6期連続で50を上回りました。
 企業動向関連DIは、前回調査より3.0ポイント低下したものの、2期連続で50を上回りました。
 雇用動向関連DIは、前回調査より7.5ポイント上昇し、7期ぶりに50を上回りました。

調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
分野					
合計	53.5	57.5	49.4	51.8	50.9
家計動向関連	58.5	60.5	50.7	51.8	50.7
小売関連	49.6	58.6	47.4	43.9	48.6
飲食関連	68.1	69.4	56.9	64.1	54.4
サービス関連	65.1	59.1	50.8	55.4	49.1
住宅関連	52.8	63.9	59.4	55.6	68.8
企業動向関連	45.0	54.1	47.0	53.3	50.3
農林水産業	28.1	46.9	40.6	50.0	53.6
製造業	46.0	55.9	45.5	53.8	45.0
非製造業	47.7	53.6	50.9	53.7	57.1
雇用関連	48.9	47.4	48.8	46.3	53.8

景気の現状判断DIの推移（分野別）

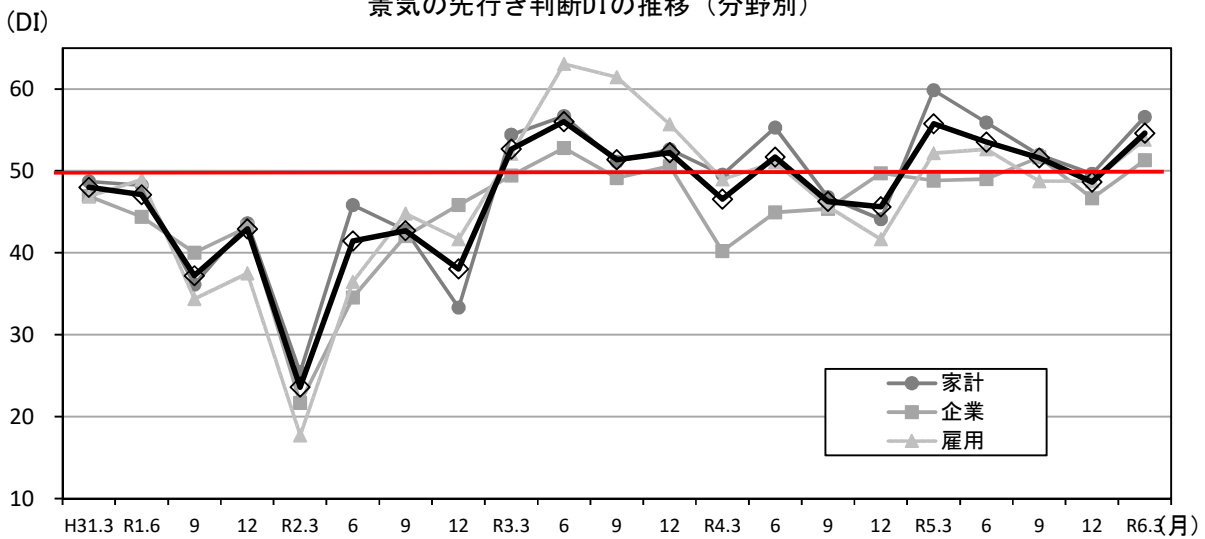


(2) 先行き判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より7.0ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。
 企業動向関連DIは、前回調査より4.6ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。
 雇用動向関連DIは、前回調査より5.0ポイント上昇し、3期ぶりに50を上回りました。

分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		55.8	53.5	51.6	48.6	54.6
家計動向関連		59.8	55.9	51.9	49.6	56.6
小売関連		54.9	53.0	45.6	46.1	51.8
飲食関連		66.7	65.3	61.1	60.9	63.2
サービス関連		63.7	56.3	54.2	47.9	58.3
住宅関連		52.8	52.8	59.4	63.9	62.5
企業動向関連		48.8	49.0	51.6	46.7	51.3
農林水産業		37.5	43.8	53.1	50.0	50.0
製造業		49.4	50.0	53.2	43.1	49.4
非製造業		50.8	49.1	49.1	50.9	54.5
雇用関連		52.2	52.6	48.8	48.8	53.8

景気の先行き判断DIの推移（分野別）



3 ウォッチャーのコメント抜粋

(1) 県北地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは47.8となりました。前回調査より3.8ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

- ・ (スーパー) 客の買物カゴの中が少し減っていたり、値引品なども目立ってきている。夜の値引を実施する時間帯の客も急に増えている状況のため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (製造業(その他)) 会社の生産量が落ちているため、やや悪くなっていると判断した。親会社を通して販売する海外顧客への製品販売量が減少していることが原因。円安の今、利益を上げる好機にも関わらずその傾向にはなっていない。中国の減速による影響が大きい。一方、国内では物価の上昇が止まらず、頼みの賃金上昇も大手ばかりに止まり、中小企業まで行き渡っていないのが現状。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは55.4となりました。前回調査より10.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

- ・ (観光型ホテル) 個人客の動きも良くなっているが、最近では団体の予約もあるので、今後は景気が良くなると感じる。
- ・ (日本料理店) 空前の株高で企業の業績が良く、ベースアップが続くこと及び地震の影響も少なくなってくることにより、やや良くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (コンビニエンスストア) スーパーなどのタイムセールや値切り販売を待つ方が多く、定価購入への抵抗感があると感じている。また、コロナ禍で我慢していた旅行などに行く方も増えており、普段の生活はより節約志向になっている。
- ・ (金融業) 株価動向やNISAに対する関心の高まりを受け、幅広い世代で投資への意識が変化してきていると感じる。

(2) 県央地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは47.9となりました。前回調査より6.1ポイント低下して、横ばいを表す50を6期ぶりに下回りました。

- ・ (道の駅) 売上げ、客数とも如実に下がっているため、悪くなっていると判断した。先行きの不安や、物価高に収入が追い付かないので買控えなどが起きている。
- ・ (公共職業安定所) この3か月における管内の有効求人倍率を前年同月比で見た場合、マイナスとなる月が続いている。また、事業主都合の離職者や受給者実人員もこの3か月は増加傾向であるため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは52.6となりました。前回調査より3.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

- ・ (運輸業) 徐々に顧客製品の出荷台数も増えて来ているため、良くなっていると判断する。
- ・ (設計事務所) 日経平均が4万円を超え、シニア世代の消費が増えることが見込まれる。また、円安が継続しているためインバウンド消費もさらに拡大が見込まれるため、やや良くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (運輸業(道路貨物運送業)) ドライバーの時間外労働の規制により、中長距離の輸送をお願いしていた協力会社に対応エリアを狭める傾向が出てきている。長距離輸送が出来なくなることで輸送を分割するために中継を行い、リードタイムが延びて発注側への負担が強いられると予想される。輸送費が商品単価に転嫁されて物価上昇の引き金になる恐れがある。
- ・ (公共職業安定所) 前年度と比較し、早期退職優遇制度の適用や経営難による廃業の取り扱いが増加した。業況に与える影響として、「原材料・原油・光熱費の高騰」、「人手不足」、「賃上げ・人件費」を挙げる事業所が多い。

(3) 鹿行地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは52.2となりました。前回調査より3.8ポイント上昇して、横ばいを表す50を3期ぶりに上回りました。

- ・ (スーパー) 販売価格が上昇する中においても消費者の購買意欲は比較的堅調であるため、やや良くなっていると判断した。特に光熱費や食用油の高騰による調理敬遠を追い風に、惣菜部門は引き続き好調である。
- ・ (求人開拓員) 求人数に大きな変化はなく、職種も介護職、運送ドライバー、警備員が継続して多く人材不足である。鹿行地区は若い求職者が少なく、比較的高齢者が多いため製造業者の工場関係事業者は人手不足を訴えている。高校新卒の求人を出してもほとんど埋まらないとのこと。さらに比較的首都圏に近い市町村は若い人は出て行ってしまい、地元に残らないようである。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは53.9となりました。前回調査より2.3ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (小売業(菓子類)) 人の動きが活発化しているように感じるし、労働者の賃上げがありそうなので、やや良くなっていると判断する。
- ・ (製造業(精密機械器具)) 新製品の開発依頼、輸出の商談など、前向きな話が複数来ており、悪くなる傾向は感じられないため、やや良くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (農業関係者) 最近、健康ブームで芋の消費が伸びており、焼き芋や干芋の売上げが年々増加している。
- ・ (金融業) 2025年3月、鉄鋼メーカーの高炉2基のうち1基が廃止されることに伴い、多くの企業や3,000人以上の従業員への影響が懸念されており、運転・設備資金の需要が減少している。

(4) 県南地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは48.3となりました。前回調査より0.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

- ・ (理・美容店) 株式投資などで資産が増えた客が、消費に還元しているため、やや良くなっていると判断した。普段ヘアカットだけの客がカラーやパーマなど単価の良いメニューを選択する傾向がある。
- ・ (求人広告) 物流2024年問題による影響か、各企業が例年に比べ採用しやすいとの声が多い。比較的条件が悪い企業でも採用できている事から、景気は悪化しているのかと思う。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは54.4となりました。前回調査より11.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

- ・ (家電販売店) 現状では売上げ、客数ともに好調な推移を見せているので、今後も景気は良くなっているのではないかとと思う。
- ・ (求人広告) 2024年度に入り、給与を上げようか検討しているとの企業を多く聞くため、やや良くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (タクシー会社) 旅行会社の予約が取れない。GW、夏休みなど、もう予約が埋まってきていて、景気が良くなっていると感じる。
- ・ (製造業(飲料)) バイパスが開通したり、これからTXの延伸が予定されていることから、人の流れが活発になるのではないかと期待する。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは57.8となりました。前回調査より1.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (商店街代表者) 当店の商品価格も上昇しているが、ユーザーに受け入れられているようだ。また、客単価も上がっているため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (製造業(電気機械器具)) 製造部門より増員の要望が出てきたため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは56.8となりました。前回調査より2.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を5期連続で上回りました。

- ・ (製造業(化学工業)) 回復傾向にあり、需要は現状よりも増えていくと予想される。特に生成AI向け分野は市場の拡大に期待が持てるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (求人開拓員) 大手企業の春闘において満額回答が多くみられ5%超の賃上げ率となる見通しであり、中小企業にも良い影響を与えるという期待が持てる。

③ 特徴的動き

- ・ (商店街代表者) 茨城県内の事業所や観光地がTVで紹介されるケースが増加したことにより、県外からの問合せ等が増加した。また、実際に県外からの来客者が増加している話を聞くことが増えている。
- ・ (金融業) 圏央道の2車線化工事が進行しており、物流倉庫の建築が盛んである。

(6) 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

- ①「**値上げ、高騰、上昇**」に関するコメント 105件 (県北: 18 県央: 21 鹿行: 25 県南: 23 県西: 18)

- ・ (衣料品販売店) まだまだ物価が上がっているが、それが売上げ、給料に結びついていない。消費マインドもかなり冷え込んでいるため、悪くなっていると判断する。
- ・ (製造業(化学工業)) 物価高騰がまだまだ続いており、消費行動が抑えられているように感じるが、一方で株高や新NISAなどへの投資をしている方は恩恵を受けているとの話も聞いており、消費の二極化が進んでいるように感じる。

- ②「**賃上げ、ベースアップ**」に関するコメント 61件 (県北: 14 県央: 14 鹿行: 11 県南: 9 県西: 13)

- ・ (レジャー施設) 物価高の上昇幅が落ち着きを見せており、人件費の上昇からも把握できるほど個人の手取りは増えている。そのため支出増が見込めるので緩やかに景気は回復傾向にあると感じる。また、客単価も緩やかではあるが例年に比べ上昇しているため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (金融業) 4月以降の賃金上昇等が起因し消費行動が活発化されれば、徐々に景気回復に繋がっていくものと思慮される。しかしながら、中小零細企業の賃金増加は現状の収支圧迫につながる可能性があり、直ちに対応することは困難であることから、3か月では変わらないものと判断する。

- ③「**新型コロナウイルス、コロナ禍**」に関するコメント 40件 (県北: 9 県央: 9 鹿行: 8 県南: 7 県西: 7)

- ・ (金融業) 新型コロナウイルスの収束に伴い、個人消費等については回復の兆しは窺えるものの、止まらない物価高騰による諸経費増加は多くの業種に影響を及ぼしており、業況の改善には至っていないものと見られるため、変わらないと判断した。
- ・ (観光型ホテル) 長い間外出を控えていた人達がそれに慣れてしまい、家の周りになっていることが普通になってきて、以前のように買物をしなくなっているようだ。いろいろな要因で不景気な気分になってしまい、金を大切にしまっておくことにしているのではないかと思われる。金の流れが少なくなってきたようだ。それでもなかなか生活は楽にはなっていないと思う。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページを御覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>